

給湯機器、給水管の凍結や積雪時の対応方法

近年、豪雪地域だけでなく、太平洋側の平地でも大雪が観測されています。
“安全・安心・快適”にお住まい頂くために、準備や心構えが必要となります。
気象予報などでお住まいの地域の気温が零下になる恐れがある日や、凍結や積雪により
万一被害が発生した際の対処法をご紹介します。



1. 水道管の凍結 [事前の対処方法]

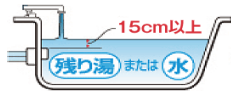


- ① お湯側の蛇口から糸状に水が途切れない程度に流しておく効果的です。
特に夜間が有効で、建物内であれば何処の蛇口でも結構です。
- ② 屋外の露出水道管やメーターボックス、散水栓などは凍結しやすいので、発泡スチロールで囲ったり上に毛布をかぶせたりして保温しましょう。
メーターボックスの中も発泡スチロールや布・タオル等をビニール袋に詰めて保温すると有効です。
※加温式凍結防止器は常にONにしておいてください
- ③ 万一、水道管が凍結した場合は、ドライヤーで熱風をあてたり、タオルを巻いて40～50度のぬるめのお湯をゆっくりかけて温めます。
お湯が用意できない場合は使い捨てカイロをタオルの上に巻くのも有効的です。
水かお湯が出るようになったらタオルを外し、まわりについた水を乾いた布で拭取ってください。
※熱湯をかけると水道管が破損する恐れがあるので避けましょう
※機器の電源コード、プラグ、コンセントに直接とお湯がかからない様に注意してください
※配管外側に水が残っていると、その水が原因で後に再び凍結する恐れがあります



2. お風呂の給湯や追い炊きができない・・・お風呂と給湯器の間の配管の水が凍結した可能性があります

[事前の対処方法]



気象予報などでお住まいの地域の気温が零下になる恐れがある日は、給湯器は自動お湯設定にし運転したまま切らないでください。
浴槽の中の水（残り湯）は全て抜かず循環口から約15cm以上うへまで残しておく、浴槽内のお湯が低温になった時、自動的に循環運転を開始するので凍結を未然に防げます。

3. お湯の蛇口から水しかでない

[事前の対処方法]



エコキュートの場合・・・屋外のユニットに雪が入り込みファンが回らなくなっている可能性があります
板状のものでヒートポンプユニットに雪が入らないようカバーをしたり、ユニット周りの雪をこまめに取り除いておくことで運転停止を未然に防止できます。
※エアコンの室外機も同様に雪を取り除いてください
※ヒートポンプ内の雪を取り除いたりお湯をかけたりする事は、センサーを傷める可能性がありますのでお止めください

4. 積雪量が多い時の注意点

もしも大雪が降ってきたら、お住まいの建物や外まわり等がどんな状況になるかご存知ですか？
お住まいのチェック場所として、玄関・勝手口などの出入口や、隣家・道路への落雪の危険性、屋根の形状や風の吹き溜まり場所などが挙げられます。その箇所に合わせた工夫をできるだけしておきましょう。



- ① 結露水が凍結し玄関ドアやサッシが開かなくなった場合は、お湯は絶対に使わずにドライヤーで温めてください
- ② 積雪時、軒先付近に積もった雪や氷は取り除きましょう。また、落下すると危険なつらは長くなる前に落としておきましょう
- ③ バルコニーに積もった雪は、雨漏の原因になる可能性があるため、あらかじめ排水口の掃除をしておきましょう
- ④ 近來、屋根に設置された太陽光発電のソーラーパネルからの落雪事故も報告されています
ソーラーパネルは、表面がガラスでできており滑らかなので雪が勢いよく落ちる傾向にあります
屋根の軒先から数メートル離れたところまで到達することがあるので、隣家や駐車場への注意が必要です
- ⑤ 積雪量が多い時に心配なのは、家の屋根だけではなくカーポートなどの屋根も同様です。また、軒から落ちた雪のかたまりに当たって庭木が折れたり倒木したりすることもありますので、雪囲い等各庭木に合わせた積雪対策もしておきましょう
- ⑥ 万一の凍結に備えて、浴槽やかん、ペットボトル等に必要最低限の生活用水を確保しておきましょう
特にトイレの排水用に必要になります

